平成２７年度

「運営に関する計画」

最終評価

いまみや小中一貫校

大阪市立新今宮小学校・今宮中学校

平成２８年２月２３日

校訓

新今宮小学校	今宮中学校
・すすんで	・自主
・なかよく	・協調
・すこやかに	・健康

１．学校教育目標

「未来を創る地球人（ちきゅうびと）を育てる」

１．自ら学び自立できる人間を形成する。

（１）自分で判断し，行動できる人間

（２）責任感が強く，絶えず努力する人間

（３）自分を見つめ，自らを律することのできる人間

（４）心身共に健康で安全な生活ができる人間

２．互いに助け合い，より良い生活のできる集団を育成する。

（１）互いに助け合い，他人の痛みがわかる仲間

（２）互いに侵すことなく，侵さない仲間

（３）力を合わせ，住みよい環境が作れる仲間

２．重点目標

人間尊重の教育を基盤とし，児童生徒に集団の一員としての自覚を持たせ，知・徳・体の調和のとれた人間形成に努める。

いまみや小中一貫校　平成２７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１．学校運営の中期目標

現状と課題

平成２７年４月１日に大阪市で三番目の施設一体型小中一貫校として，開校したばかりである。

本校は西成区北東部にあり学校周辺の環境問題，社会的な問題等を多く抱えている。その中にあっても子どもたちは逞しく生きている。とは言え，生活の状況が厳しい子どもたちもまた多い。それだけに生活していくことが優先され，学習は二の次になりがちである。また，社会経験・体験が乏しい子どもも多い。

加えて，全市募集により校区外からの児童生徒が少なからず転入学してきたことによる影響については未知の部分も多く，学力について，あるいは人間関係についてなど様々な願いを持ってきていると思われる。臨機応変で幅広い対応が求められる。

中期目標

【視点　学力の向上】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「交流」「挑戦」「体験」を核とした学力向上の取り組みを行う。

○　ICT 機器を活用した授業を行い，多種多様な交流を通して思考力・判断力・表現力を育てる。

→　思考力・判断力・表現力を高められるよう ICT を活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「ICT 機器を活用した授業は楽しい」「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」と答える児童生徒の割合をそれぞれ７５％以上にする。

（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

○　児童生徒各自の興味関心に応じた「挑戦」を推進する。

→　自ら学ぶ姿勢をもつ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７５％以上にする。

（カリキュラム改革関連）

○　1 年生からの英語学習に取り組み，体験を通してコミュニケーションツールとして活用していこうとする意欲をもった子どもの育成を図る。

→　1年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７５％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。　（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

【視点　道徳心・社会性の育成】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「みんなに優しいＵＮＩＶＥＲＳＡＬな学校」「先進のＧＬＯＢＡＬな授業」「一人一人の違いを大切にするＤＩＶＥＲＳＥな学級」に関わる取り組みを行う。

○　研究部の中に「道徳担当」を設置し，道徳教育を推進する。

→　道徳教育全体計画別葉を作成し，すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を毎年，実施する。（カリキュラム改革関連）

○　いまみや小中一貫校の特色を生かし，小中での児童・生徒の交流を行い，高学年の児童・中学校の生徒の自己有用感を高め，低学年の児童のロールモデルとなるような取り組みを構築する。また，この間中学校を中心に推進している「吹奏楽部」を充実させ，児童生徒の豊かな感性・情操を養うと共に小中の交流，地域との交流も推進する。

→　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を８０％以上めざす。（マネジメント改革関連）

→　学校全体に対する演奏会，地域等外部での演奏機会を毎年８回以上行う。（マネジメント改革関連）

○　区役所，地域と連携した防災教育を推進する。

→　毎年小中連携した防災教育を実施すると共に区役所，地域等と連携した防災訓練を実施する。（カリキュラム改革関連）（ガバナンス改革関連）

○　「みんなに優しいＵＮＩＶＥＲＳＡＬな学校」づくりを推進する。

→　毎年度末の教職員アンケートで「学級・学年・学校のユニバーサルデザイン化」が「進んでいる」と答える割合を７５％以上にする。（マネジメント改革関連）

【視点　健康・体力の保持増進】

○　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，平均値を大阪市平均値より上にする。（カリキュラム改革関連）

○　毎年度末の児童生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，毎日規則正しい生活を送っている」に対して，肯定的な回答の割合を７５％以上にする。（カリキュラム改革関連）

２．中期目標達成に向けた年度目標

【視点　学力の向上】

①　思考力・判断力・表現力を高められるよう ICT を活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「ICT 機器を活用した授業は楽しい」「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」と答える児童生徒の割合をそれぞれ７０％以上にする。

（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

②　自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７０％以上にする。

（カリキュラム改革関連）

③　１年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７０％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。　（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

【視点　道徳心・社会性の育成】

①　道徳教育全体計画別葉を作成し，すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を毎年，実施する。　（カリキュラム改革関連）

②　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を７５％以上めざす。

（マネジメント改革関連）

【視点　健康・体力の保持増進】

①　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，小学校は走力に関する結果を，中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づける。　（カリキュラム改革関連）

②　年度末の児童生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，毎日規則正しい生活を送っている」に対して，肯定的な回答の割合を６０％以上にする。

（カリキュラム改革関連）

３．本年度の自己評価結果の総括（改訂版）

【視点　学力の向上】

①について

学校教育アンケートで「電子黒板や iPad を使った授業は楽しい。」の項目，「授業はわかりやすい。」「授業でわからないことについて，先生に聞きやすい。」の項目で，目標の７０％以上を達成できた。理由として，全学級に電子黒板や書画カメラ等の ICT 機器が設置され，「いつでも」「どの教科でも」活用することができたからだと考えられる。

しかし，「授業中，自分の考えや意見を発表している。」の項目で「当てはまる」「やや当てはまる」の割合は，１・２年生を除く学年で目標を下回った。一方で，「授業はわかりやすい。」「授業でわからないことについて，先生に聞きやすい。」については，肯定的回答が多い。そこで，今後もタブレット PC のプレゼンテーション機能を活用した発表，ワークシートを電子黒板に映し出して児童生徒が説明するなど，ただ発表の場を設定するだけでなく，発表するという意欲を高める言葉がけを積極的に行ったり，適切に評価したりすることが大切だと考える。

②について

年度末の児童生徒アンケートで，「目標に向かって，がんばることができた。」の項目で肯定的回答は目標の７０％以上であった。理由として，小学生は「放課後チャレンジ教室」，中学生は「元気アップテスト前学習会」などに自主的に参加することで，一人ひとりが自分の課題を設定し，その課題解決に向かって熱心に取り組むことで，学習の定着につながり，達成感を味わうことができたからだと考える。次年度も，手紙・プリントの配付等で参加者を募り，より多くの児童生徒が参加できるよう，内容に工夫を凝らしたいと考える。

③について

学校教育アンケートで「英語は楽しく学習できている。」の項目で，「当てはまる」「やや当てはまる」の割合が全学年で目標の７０％を上回った。特に１・２年生は肯定的回答が９０％を超えていた。理由として，小学校のモジュール活動や中学校のリーディングやライティング等，児童生徒の実態に応じた指導内容の工夫と計画的に活動を行ってきたからだと考える。本年度の実践を踏まえ，次年度は９年間を見越したカリキュラム作成にも力を注ぐ予定である。

【視点　道徳心・社会性の育成】

①について

本年度，目標としていた道徳教育全体計画別葉を作成することができた。理由として，年度当初に道徳における年間計画を作成し，「勇気」の項目に焦点を当て授業実践を行い，「道徳実践報告」にまとめることができた。また，実践報告会を開き，本年度の実践を反省するとともに，道徳の教科化に向け，一人ひとりが研鑽を積むことができた。次年度も継続して，道徳教育の実践・研修を進めていくことが大切だと考える。

②について

学校教育アンケートで「自分は友だちに大切にされている。」「先生は学習で努力をしたことについて認めてくれる。」「他学年との活動で，自分は役に立ってうれしかった経験がある。」の項目で，肯定的回答の割合７０％以上を概ね達成することができた。理由として，運動会や縦割り班活動をした「新今宮祭」，生徒会主催の「どんぐり祭」や職場体験等，児童生徒が主体的に活動できる学校行事を企画したり，全教職員が児童生徒の生活・学習の実態を把握し，適切な指導を行ったりすることがより一層重要であると考える。

【視点　健康・体力の保持増進】

①について

「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」において，小学校では「２０ｍシャトルラン」「５０ｍ走」の結果，中学校ではすべての結果において，大阪市の平均値に近づけることができた。特に女子の結果は全国平均値を上回る結果が出た。しかし，アンケートでは「運動は大切」だと答える児童生徒は多いものの，学年が上がるにつれて「運動が好き」「運動が得意」の項目での肯定的回答は減少している。それに伴い，「体力に自信がある」の項目の肯定的回答も下がっている。小学校中学校共に体育科の学習内容の充実はもちろんのこと，外遊びの工夫や「駆け足週間」「縄跳び週間」等の強調週間の導入など，基礎体力向上をめざした取り組みが必要であると考える。

②について

学校教育アンケートで「遅れずに登校している。」「学校のきまりや約束を守っている。」の項目で，肯定的回答が目標の６０％以上を達成することができた。理由として，小学校中学校共に，遅刻が目立つ児童生徒に対して，家庭との連携を密にし，電話で対応したり，登校後の学習量を確保したりするなど，適切な対応をしてきたことなどが挙げられる。しかし，３～６年生児童の「学校のきまりや約束を守っている。」の肯定的回答が全体に比べると低くなっているのが気になる。健康週間等の強調週間により，生活習慣や規則の遵守など一定の効果は上げられたが，小中一貫校になったことによる３～６年生児童の気の緩みも見られる。今後も継続して自己有用感を高められるような取り組みを行うとともに，９年間を見越した生活指導のあり方を考える必要がある。

いまみや小中一貫校 平成２７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　学力の向上】 ①　思考力・判断力・表現力を高められるよう ICT を活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「ICT 機器を活用した授業は楽しい」「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」と答える児童生徒の割合をそれぞれ７０％以上にする。（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連） ②　自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７０％以上にする。（カリキュラム改革関連） ③　１年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７０％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【ICT を活用した教育の推進】 電子黒板やタブレット等，ICT を学習活動で活用し，自分の考えをまとめたり，説明したりする力を高める。（カリキュラム改革関連）	A
指標　・　ICT 機器の活用回数を全活動時間の２０％以上にする。	
取組内容②【自主的な学習習慣の向上】 漢検・数検・英検等各種検定や発展的な学習活動に挑戦する「チャレンジタイム」を設定し，基礎学力の定着に向上が見られるようにする。また，児童生徒自身が目標を設定し，目標達成のために努力できる環境を整える。（カリキュラム改革関連）	C 放課後チャレンジ
指標　・　５年生から９年生までの５学年で，各自年間２０時間以上，チャレンジタイムを実施する。漢検・数検・英検等の検定情報を収集し，児童生徒が目標設定しやすくなるよう，掲示や提示の方法を工夫する。１年生以上を対象とする放課後学習では，発展的な課題に取り組める体制を作り，年間１２０時間以上実施する。	A

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】 実践を通して９年間を見通した小学校１年生からの英語教育カリキュラムを整備し，小中連携の新しい形を模索する。（グローバル化改革関連） 指標　・　英語教育を研究主題として挙げ，年間８回以上の授業研究会を行い，事前検討会・事後討議会を通して教員の資質を高める。また，モジュール学習を含めて小学校１・２年生は４５時間以上，３・４年生は６０時間以上，５・６年生は７０時間以上，英語教育を実践する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【ICT を活用した教育の推進】

アンケートにおいて，「ICT 機器を活用した授業は楽しい」と答えた児童生徒の割合は８０％以上と，当初の目標数値を上回ることができた。その大きな要因としては，ICT 機器の特性を生かしながら，積極的に授業づくりに臨んだ結果だと思われる。本年度の授業研究会等の実践から ICT 機器の活用事例を見ると，学習内容の理解度を高めるための教材の提示方法の工夫や学習意欲を高めるための画像を加工した指導材の作成などが挙げられる。指標では，ICT 機器の活用回数を全活動時間の２０％以上としていたが，その頻度は指標以上だと思われる。

タブレットは調べ学習だけでなく，記録や思考を深めるためのツールとしての活用も行われた。小３～６年生では keynote 等を使用し発表の場面でも活用することもできた。その上，ICT 支援員・授業作り指導員の在籍により，授業での具体的な使用法のアドバイスだけでなく，タブレットがいつでも安心・安定して使いたい時に使えるような下支えもあり，より活用が進んだ。

取組内容②【自主的な学習習慣の向上】

年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７０％以上にすることができた。自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成できていると言える。

小学校の放課後チャレンジ教室は６月からこれまで，計画的継続的に進めることができ，年間１２０時間以上実施することができた。担任，家庭と連携を取ることで，徐々にではあるが，出席率も上がってきている。宿題の他に自主的な学習に取り組み，学習の定着や発展的な学習に役立っている。

検定対策等としての取り組みとして，中学校では，９年生を対象とした土曜日のサテディスタディ，定期テスト前学習会，国語科では希望者を対象にした漢検学習に取り組

んだ。だたし，チャレンジタイムの設定は，小中ともできなかった。その要因として，時間と人の設定・確保，受検にかかる費用の問題，学習に必要な教材の整備が挙げられる。

まず，検定や発展的な学習に挑戦する時間の設定・確保について，教科学習の中には時間的に入れることは難しい。放課後には部活動があり，希望者のみの学習会を開催するにしても，教員の確保が必要である。総合的な学習の時間をすべて当てることもできず，行事等の関係もあり定期的開催は困難である。校時表やカリキュラム等の改革や適切な人員配置など，取り組む時間と人の確保がまず必要である。

次に，受検にかかる費用について，中学校では昨年度は配当できた受検料が今年は個人負担になり値上がりもあったことで，全体で取り組むという雰囲気や意欲が減少したことが挙げられる。学習の一環として全員が学び合格をめざすなら，受検までできちんと面倒を見る仕組みが必要である。

教材については，来年度の予算で購入する予定であるが，今年度は教材等が十分に揃わない状態であり，過去問題に挑戦させたくてもできない状況であった。

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】

児童生徒アンケートにおいて「英語は楽しく学習できている」の設問に対して肯定的に答えた児童生徒の割合が８０％を超えた。１年生から英語に慣れ親しむことができたといえる。また，どの学年も，週３回のモジュール学習と週１回の英語学習を行っているので，指標にあった１・２年生は４５時間以上，３・４年生は６０時間以上，５・６年生は７０時間以上の英語教育も実践した。英語は児童の成長が著しく，今後も同様または，それ以上の効果が期待できそうである。聞き取る力，知らない単語でも読もうとする力が高まってきたように思う。

その上，外部講師を校内研修や授業研究会に招へいし，英語の授業研究会を年９回，研修会を４回行うことで，小学校英語に関する指導方法，教材開発，学習指導課程の構成等についての資質向上を図ることができた。

次年度への改善点

取組内容①【ICT を活用した教育の推進】

まず，ハード面での課題が挙げられる。無線 LAN が全教室には行き届いておらず，電子黒板の設置も教室に限られていて，習熟度別学習や教科学習など教室以外の場所で使用したくてもできない現状もある。環境面のさらなる整備が必要である。また，タブレットの台数も当初は児童・生徒数分なかったため，個人持ちにはならなかったが，３月には小学校１９０台，中学校２３０台納入される予定である。保管場所と機器の管理，

小学校１・２年生での活用が課題となるだろう。

ソフト面では，データのやりとりを指導者と児童・生徒間でスムーズに行うために，情報の集約と分配システムの充実が望まれる。また，書画カメラを活用する際，映した画面に文字を書き込めるものがあれば，より充実した指導が可能となる。

ICT を活用した教育の推進において，今後は，活用頻度を高めるとともに，「どのような事柄」を「どのような形」で指導していくか，活用方法を追求していくことが課題になる。例えば，内容的に充実しているとは言えないデジタル教科書の活用は，まだ少ない。教科によっては便覧等資料集の方が使いやすい。ICT の活用が指導の中心にならないよう，学習の流れの中で必要に応じて活用することを今後も大切にしていきたい。そのためにも，今年度の実践内容をとりまとめ，教科や学習場面ごとにどのように活用したのかを共有し，来年度に引き継いでいく。

また，ICT 研修会は，新しいタブレットが windows に変更になるが，アプリケーションの使用方法に重点を置くのではなく，効果的な活用方法について情報交換をする校内実践交流を中心に行う予定である。そして，２学期・3 学期に 1 回ずつ ICT のモデル校としての発表に備え，小中連携して進めていきたい。

取組内容②【自主的な学習習慣の向上】

放課後チャレンジでは，この地域に残る「宿題を学校でしてから帰る」習慣のため，発展的な課題をする時間を確保するのが難しかった。各クラスの終了が揃わず，５０分の学習時間も１０分程度短くなることも少なくなく，第２部（６時間目の後開催）は会議等で開催できないことも多かった。学校や子どもの現状から考えると，各種検定に関する問題に取り組ませるより，基礎基本の定着に時間をかけることが必要であるように思われる。

学校のパンフレットにも各種検定への挑戦は掲載されてはいるが，できれば，今年度中に試験的な活動やアンケートなどを実施し，保護者や児童生徒のニーズなどの実態を知る必要があると思われる。また，実施するなら，前述した時間と人の設定・確保，受験にかかる費用の問題を解決しなくてはいけない。そして，しっかりとした年間計画を立て，主担者を決め，情報を共有する仕組みも必要となる。

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】

今年度作成したいまみやカリキュラムを来年度実施しながら再検討し，６年間通した学びの流れを見直す。その際，モジュール学習の内容とカリキュラムが関連するような工夫を行う。小中互いの授業を見学しやすい体制をつくり，来年度７年生の英語学習のあり方を検討する中から，９年間を見越したカリキュラムの作成に着手する。

また，７年生から入学してくる子どもたちへの支援体制についても検討していく。中学校との兼ね合いや学習効果を考慮に入れ，モジュール学習の時間を設定し，児童の生活リズムに定着させる。

いまみや小中一貫校 平成２７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　道徳心・社会性の育成】 ①　道徳教育全体計画別葉を作成し，すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を毎年，実施する。（カリキュラム改革関連） ②　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を７５％以上をめざす。（マネジメント改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳教育の推進】 道徳教育全体計画別葉の重点目標の内容項目を全学年部において作成し，実践の在り方を研究する。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　実践報告を中心とした，研修会を実施する。	B
取組内容②【国際理解】 世界の文化を知り，日本の文化を学び，大阪の文化を体験し，平和の尊さを自らのものとする。（グローバル化改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートにおいて「世界や日本の文化を学び，平和の大切さがわかった」の肯定的な回答の割合を７０％以上にする。	A
取組内容③【自他の違いの認め合い，支え合う意識の育成】 異学年交流・活動を通して互いに認め合い，支え合う集団を育成する。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　たてわり活動を生かした，集会活動を実施し，児童・生徒アンケートの「いろいろな学年と交流して楽しかった」の質問項目の肯定的な回答の割合を７５％以上をめざす。 ・　「吹奏楽部」による校内外の演奏を年７回以上行う。 ・　小中連携した防災教育や区役所，地域等と連携した防災訓練を年１回以	B

上実施する。	
取組内容④【人権を尊重する教育】 学級・学年での教室環境などをユニバーサルデザインの視点で見直し，学校のユニバーサルデザイン化の在り方を検討・共通理解する。　（カリキュラム改革関連） **指標**　・　毎年度末の教職員アンケートで「学級・学年・学校のユニバーサルデザイン化」が「進んでいる」と答える割合を７０％以上にする。	C

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

取組内容①【道徳教育の推進】

道徳教育全体計画別葉を全学年で作成できた。小学校，中学校とも公開授業を行い，授業についての検討会ももつことができた。また。年間計画に従って，実践報告会を実施することができ，研修を深めることができた。

取組内容②【国際理解】

年度末に実施した児童生徒アンケートの結果では「世界や日本の文化を学び，平和の大切さがわかった」の項目で肯定的回答の割合が５，６年生で９４．９％，７～９年生で８９．３％と目標の数値を大きく上回ることができた。

各学年の実践については，生活科，総合的な学習の時間，社会科，外国語活動，音楽科，クラブ活動，テナムの会の発表の鑑賞などで多岐にわたって工夫された内容が取り組まれた。国際理解教育としては多文化共生の視点で取り組み，子どもたちにつながりのある国について理解を深めるような実践を行うことができた。

また，５・６・７・８年生では，学習の中で百人一首を取り入れ，児童生徒に日本文化に触れる機会を作ることができた。

取組内容③【自他尊重・集団育成】

年度末に実施した児童生徒アンケートでは「いろいろな学年と交流して楽しかった」の質問項目に肯定的な回答の割合が１，２年生で８７．７%，３，４年生で７４．３%，５，６年生で７７．９％，７～９年生で６６．９％となり，目標としていた７５％を全ての学年では上回ることができなかった。小学校では縦割り班活動を中心に行った「新今宮祭」がアンケート実施後に行われるなど楽しかったと感じる機会がアンケート前には少なかったことが要因と考えられる。中学校でも球技大会が行われたのは３学期で同様の影響はあったと考えられる。しかし，異学年交流や小中交流が活発に行われたとは言い難い状況であったことは事実である。

取組内容④【人権を尊重する教育】

年度末の教職員の学校アンケートでは指標にしていた「学級・学年・学校のユニバーサルデザイン化が進んでいる」の質問項目について，肯定的な回答の割合が５５．８％と目標としていた７０％を大きく下回った。しかし，保護者へのアンケート「学校の施設・設備はよく整備されている」の項目は小学校で８７．７％，中学校で８１．７％と高評価であった。各学級や学年で掲示物を工夫したり，動線を考えて配置に配慮したりと工夫はしている。

ユニバーサルデザインについての研修会を実施することができなかったことは，反省点の一つである。

次年度への改善点

取組内容①【道徳教育の推進】

道徳の教科化に向けての研修を深めていくことが必要である。特に評価の在り方や通知表での保護者などへの周知の在り方など研究を深めていく必要がある。学校行事や総合の取り組みの時間として道徳の授業が使われてしまうことがあったので，教科化に向けて時数をきちんと確保しておくことが必要である。

取組内容②【国際理解】

英語（外国語）活動を実施していることで，国際理解教育をしているような気持ちになってしまいがちなので，英語（外国語）活動の国際理解的な側面と教科学習の側面を整理しておく必要がある。

また，本校には様々な国や民族につながりのある児童・生徒が多いので，その子どもたちが自分のつながりを誇りに思えるような実践を継続して進めていく一方，周りの子どもたちへの教育が最も必要であることを共通理解しておく必要がある。

取組内容③【自他尊重・集団育成】

「新今宮祭」の様子や事後の子どもの感想などを聞くと「楽しかった。」「高学年がやさしく面倒をみてくれてうれしかった。」「低学年の世話は大変だったけどやりきれてよかった」などの感想が多く聞かれた。そのことを踏まえても，もっと異学年交流の場を増やしていくことが必要であると考える。異学年交流の要となるリーダーを育てたり，学級活動の時間を全学年揃えたり，二年目の利点を生かしてさらに計画的に実施したりと改善の余地があるので検討して進めていく。

中学校の部活動への小学生の参加は，部活動が活性化するメリットがあるものの，参加の方法が中学生とちがっているので自由参加的になってしまった児童もいる。その児童が７年生進級時に改めて部活動に参加するのかも含めてデメリットの部分も目立っ

た。小学生の参加方法を一度入部すると５年間は継続するなど検討する必要がある。
体育館や交流ホールの利用の仕方が小中で統一する。

小中の交流については，中学生の状況によっては小学校の授業妨害などの事例もあるので，慎重に検討する必要があるのではという意見も多いので運営の方針も含めて全体的な討議の場をもつ。

取組内容④【人権を尊重する教育】

教職員対象の研修会をとにかく実施し，ユニバーサルデザイン化のイメージを共有化する必要がある。ただし，施設面においては，予算もあるので改善点があったとしてもすぐには難しい。また，特別支援教育の教室の配置など教室配置などの観点でも検討していく。

いまみや小中一貫校 平成２７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　健康・体力の保持増進】 ①　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，小学校は走力に関する結果，中学校はすべての結果を大阪市平均値より上にする。（カリキュラム改革関連） ②　年度末の児童生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，毎日規則正しい生活を送っている」に対して，肯定的な回答の割合を６０％以上にする。（カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【体力向上への支援】 体育の授業の進め方，休憩時間の過ごし方等について，小中連携して取り組みを研究し，実践する。（ガバナンス改革関連） **指標**　・　体育の授業において，小学校は「走」の測定を行い，比較分析し，改善を行う。 ・　体育の授業において，中学校は「走」「跳」「投」の測定を行い，比較分析し，改善を行う。	B
取組内容②【体育的活動の充実】 運動部の活動の活性化や児童集会などでの運動的な取り組みを充実させ，運動に親しむ機会を増やす。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートで「体を動かしたり運動したりすることが好きである」の肯定的回答を６０％以上にする。	B
取組内容③【健康な生活習慣の確立】 児童・生徒の委員会活動を中心に「規則正しい生活習慣をつける」「朝食を食べる」ことの大切さについて日常的に呼びかける。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，毎日規則正しい生活を送っている」に対して，肯定的な回答の割合を６０％以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【体力向上への支援】 体育の授業では，リレーや５０ｍ走，持久走など「走ること」を中心とした学習を進めていくことができた。運動会では，トラックの大きさを活用して，徒競走やリレーなどの競技で運動量を増やすことができた。中学校の教諭が小学生を指導する時間を設けるなど，少しずつではあるが小中連携した取り組みがなされている。小学校では，モジュールの時間の見直しにより，２０分休憩を設定し，遊びの時間を十分に取ることができた。「みんな遊び」など学級での取り組みや生活指導部との連携した呼びかけにより，積極的に運動場で遊ぶ児童が増えてきたが，外に出たがらない児童もいる。小学校では体力向上のための時間や場の工夫を重ねてきたが，「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」の走力に関する結果で女子が大阪市平均値を上回ったが，男子は上回ることができなかった。中学体育では，授業の中で毎時間，補強運動を行い，体力の向上に努めてきた。「跳ぶ力」の体力テストの結果では，８年生男子の「反復横跳び」「立ち幅跳び」のみ前年度の大阪市平均を超えることができた。しかし，全体的に，瞬発力，敏しょう性の項目の記録が低いので，馬跳びの補強運動を増やした。 **取組内容②【体育的活動の充実】** 運動部の活動は，中学生を手本として小学生が積極的に参加し，小中連携して活性化を図ってきた。小学生は，活動を続けていく中で，体力が向上し上達する喜びも感じている。また，途中入部する児童もいる。児童集会では「ふえおに」「大なわ」など楽しみながら運動する活動を取り入れ，運動が苦手な児童も親しめるよう工夫をしてきた。休憩時間は，中庭や運動場で，低学年を中心に多くの児童が体を動かし，自分の体力向上に努めている様子が見られた。 **取組内容③【健康な生活習慣の確立】** １学期は自分の生活を振り返る機会を設け，自分の課題について考えた。２，３学期は，強調週間（健康週間）を設け，健康委員会の発表やがんばりカードで，規則正しく健康的な生活の大切さを知らせてきた。小学校では，週に１度，健康委員会による清潔検査を実施し，その結果を掲示することで，清潔や健康に対する意識が高まった。中学校では，学期ごとに，生活委員による生活点検週間を行うことで，生活習慣や規則の遵守に対する意識が高まった。さらに，保健だよりで家庭にも呼びかけ，協力しあう体制づくりに取り組んできた。アンケートの結果も「遅れず登校している。」の項目で肯定的な意見が６０％以上となり規則正しい生活が実践されている。

次年度への改善点
取組内容①【体力向上への支援】 体育の授業で「走力」を高めることをねらいとした取り組みを小中連携しながら検討していく。休憩時間だけでなく，集会活動や土曜授業など他の機会も活用していく。 **取組内容②【体育的活動の充実】** 今後も小中連携して運動部の活動の活性化を図っていくために，入部に関しての明確なルール作りや部活動の紹介などを行っていく。児童集会では，運動的な取り組みの機会を増やし，内容を充実させていく。1 年間を通して体育的活動に取り組めるよう年間計画を立てていく。 **取組内容③【健康な生活習慣の確立】** 今後も，自身の生活を振り返り，改善していく機会を持つようにする。また，家庭の協力が得られるように，懇談会や便り，ホームページなどで続けて呼びかけていく。次年度に向けては，小中連携した取り組みを行っていく。